

令和 年度 「高等学校 新倫理 新訂版」 (35・清水・倫理308) シラバス案

教科	公民科	単位数	2 単位	学科	学年／学級
----	-----	-----	------	----	-------

●学習の目標と評価基準

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の在り方生き方を主体(自己)との関わりから考えることができる。 ・自らの体験や悩みを振り返ることから課題を見だし、それに基づいて青年期の意義と課題を多面的・多角的に考察し、豊かな自己形成に向けて探究できる。 ・人間としての在り方生き方について、ギリシャ思想、キリスト教、仏教、儒教などの代表的な先哲の思想や芸術家とその作品を手掛かりとして広い視野に立って主体的かつ公正に判断できる。 ・日本人にみられる人間観・自然観・宗教観などの特質について、自己形成の課題とつなげて、多面的・多角的に考察できる。 ・「人間の尊厳と生命への畏敬」や「自然と科学技術と人間とのかかわり」について人格形成に寄与する知識として身につけている。 ・現代の諸事象について、倫理的視点から主体的に課題を見だし、探究できる。
使用教科書／教材	

科目の評価の観点

【関心・意欲・態度】	【思考・判断】	【資料活用・表現】	【知識・理解】
人間尊重の精神と自己形成について関心を高め、人格の形成と生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらにかかわる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断できる。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を収集し、これらを自己形成に資するよう活用するとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現できる。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などにかかわる基本的な事柄を、生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付ける。

●学習の計画と評価の方法

月	配当時間	編	学習内容(目次)	学習のねらい(目標)	評価の方法
4月	5	第1編 現代に生きる自己の課題	第1章 人間とは何か		
			人間性の特徴／人間—複雑で多面的な存在	<ul style="list-style-type: none"> ・ホモ・サピエンスやホモ・ファールベル、ホモ・ルーデンスなどの定義を把握させ、人間存在の特性について理解させる。 	【関意】【思判】 【技表】レポート等 【知理】小テスト・定期テスト
			第2章 青年期の課題と自己形成		
			1 青年期の意義 2 自己の理解に向けて 3 豊かな自己実現のために	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期の特徴を、心理学的な定義などを通して知り、自分が置かれている状況を客観的に捉え直す機会を与え、青年期の課題を把握させる。 ・パーソナリティの形成、欲求と適応について具体的な事例を通して理解させ、個々の行動や心理を客観的に把握させる。 ・オルポートをはじめ、心理学者が提示する青年期の発達課題を理解させ、生徒ひとりひとりにとっての発達課題について考えさせる。 ・アイデンティティとは何かを知り、青年期にアイデンティティを確立することが重要であることを理解させる。 ・フランクルの事例を通して、極限状態における「生」を想像し、「生きる意味」「何のために」の必要性を理解させ、自分にとっての「生きる意味」を考えさせる。 	【関意】ノート 性格についてのプレゼン等 【思判】テスト・レポート等 【技表】作文・小論文 【知理】小テスト・定期テスト
		第2編	第1章 人生における哲学		

月	配当時間	編	学習内容（目次）	学習のねらい（目標）	評価の方法
5月	4	編人間としての自覚と生き方	1 神話から哲学へ 2 自然哲学の誕生とソフィスト 3 真の知への道 ソクラテス 4 理想主義的なあり方 プラトン 5 現実主義的なあり方 アリストテレス 6 幸福をめぐる問い ヘレニズムの思想	<ul style="list-style-type: none"> 哲学を生み出した古代ギリシャ人の精神活動や世界観を理解させる。 ソクラテスの思想を、無知の知や魂への配慮を中心に理解させ、「よく生きること」の意味を考えさせる。 プラトンやアリストテレスの思想を、人間の徳や幸福という観点から理解させる。 ストア派とエピクロス派の思想を、個人の生き方としての禁欲主義・快楽主義という特質で理解させる。 現代社会において、ギリシャ思想の理性主義や調和と秩序がどのような意義をもつか考えさせる。 	【関意】資料読解・読書 【思判】【技表】レポート 【知理】小テスト・定期テスト
			第2章 人生における宗教①		
			第1節 キリスト教 愛の宗教 1 ユダヤ教 2 イエスの思想 3 世界宗教への展開 第2節 イスラーム 啓示と戒律の宗教	<ul style="list-style-type: none"> キリスト教の母胎となったユダヤ教について、その一神教的な特色を中心に理解させる。 キリスト教について、イエスの説く律法の内面化、神への愛と隣人愛の教えを中心に理解させる。 恩寵と贖罪についてのパウロの思想を基軸にしながら、キリスト教が完成されていったことを理解させる。 イスラームの成立、宗教的な義務と戒律を中心にその教えの特徴について理解させる。あわせて、現代社会におけるイスラーム世界の全体像を理解させる。 	【関意】資料読解・読書 【思判】【技表】レポート 【知理】小テスト・定期テスト
			第2章 人生における宗教②		
5月	4	編人間としての自覚と生き方	第3節 仏教 智慧と慈悲の宗教 1 パラモン教 2 仏陀の思想 3 仏教のその後の展開	<ul style="list-style-type: none"> インド思想誕生の母胎となった古代インド社会を概観させ、その思想の特徴について理解させる。 パラモン教の中心教義となった輪廻と業の思想について理解させる。 ゴータマの出家から悟りに至るまでの生涯を概観し、その思想を生んだ背景を理解させる。 ゴータマの悟りの中核とされる中道、四諦八正道、縁起の法について理解させる。 大乘仏教は、日本に伝えられた仏教であることを理解させ、菩薩・空・唯識などの代表的な考え方を理解させる。 	【関意】資料読解・読書 【思判】【技表】レポート 【知理】小テスト・定期テスト
			第3章 人生の知恵		
5月	4	編人間としての自覚と生き方	1 孔子と儒家の思想 2 儒教の展開 3 道家の思想	<ul style="list-style-type: none"> 中国思想における天や諸子百家の思想内容を、その歴史的社会的背景とともに理解させる。 孔子の説く仁について、孝悌、忠、恕、信などさまざまな側面からとらえさせ、また仁の発露としての礼について理解させる。 	【関意】資料読解・読書

月	配当時間	編	学習内容（目次）	学習のねらい（目標）	評価の方法
6月	3			<ul style="list-style-type: none">孔子のめざした理想の人間像としての君子と、徳治主義の政治について理解させる。孟子の性善説について、荀子の性悪説と対比して、四端説を中心に理解させる。朱子学と陽明学の考え方を理解させる。道家の思想が儒家の批判の上に立つことをふまえて、その教えや生き方や社会観が現代にも示唆的であることを理解させる。	【思判】【技表】レポート 【知理】小テスト・定期テスト
	1		第4章 人生における芸術		
			芸術と芸術家／ 共同作品としての芸術／ 芸術と社会／ 日常生活と芸術	<ul style="list-style-type: none">美や芸術の概念を理解させ、人生における芸術の意義を考えさせる。シャルトルの大聖堂やステンドグラスや日本の民芸にみられる芸術の共通性を理解させる。創作者(制作者)と鑑賞者(享受者)の相互作用として、芸術と社会の関係を考えさせる。ホイジンガの「遊び」の概念を通して、芸術の日常性を理解させる。	【関意】【技表】レポート、プレゼン、小論文など 【思判】レポート 【知理】小テスト・定期テスト
	1	第3編 現代社会と倫理	第1章 現代の倫理的課題		
			近代とは何か／ 合理化と近代科学／ 合理的な考え方と社会の進歩／ 近代社会がもたらしたもの／ 近代社会の限界	<ul style="list-style-type: none">西洋の合理化の過程としての近代社会の特質をとらえ、脱呪術化の担い手としての科学技術の発達と進歩の観念について考えさせる。(進化論と実証主義について考察する)組織の巨大化にみる合理化の進展の側面と個人の無力感と不安を生み出した側面を対比させながら、現代の倫理的な課題について考えさせる。	【関意】【思判】【技表】ノート・レポート等 【知理】小テスト・定期テスト
	2	第2章 現代に生きる人間の倫理①			
7月			第1節 人間の尊厳 1 自己肯定の精神 2 宗教観の転換 3 人間の偉大と限界	<ul style="list-style-type: none">ルネサンスの考察を通して、現代社会のものの見方・考え方が近代の人間性尊重の精神に基づいていることを理解させる。ルターやカルヴァンの思想と生涯を通し、近代市民社会と信仰について考えさせる。政治や社会の激動の中で、人間理性への信頼を基盤としたモラリストたちの思索について考察させる。	【関意】授業態度・ノート 【思判】【技表】レポート・プレゼン等 【知理】小テスト・定期テスト
	3		第2章 現代に生きる人間の倫理②		
8			第2節 自然や科学技術と人間とのかわり 1 自然への目と科学的なものの見方 2 事実と経験の尊重 3 理性の光	<ul style="list-style-type: none">近代科学は、自然のなかに数量的法則を発見し、技術的に支配する思想とともに発展したことを理解させる。ベーコンの帰納法による経験主義的立場、デカルト的方法的懐疑と演繹法、合理主義について理解させる。	【関意】授業態度・ノート 【思判】【技表】レポート・プレゼン等 【知理】小テスト・定期テスト

月	配当 時間	編	学習内容（目次）	学習のねらい（目標）	評価の方法	
月				<ul style="list-style-type: none">近代哲学の成立について理解させ、理性的主体としての人間の尊厳の考え方が、現代にどのように生き続けているかについて考えさせる。		

月	配当 時間	編	学習内容（目次）	学習のねらい（目標）	評価の方法
9月	3		第2章 現代に生きる人間の倫理③		
			第3節 民主社会における人間のあり方 1 民主社会の原理 2 人権思想の展開	<ul style="list-style-type: none"> 近代において、個人と市民社会がどのようなプロセスを経て確立されたのかを理解させる。 ホッブズ、ロック、ルソーのそれぞれの社会契約説の違いを理解させる。 民主主義社会の成立過程について把握させ、現代への影響や民主主義のあり方と真の自由について考えさせる。 	【関意】授業態度・ノート 【思判】【技表】レポート・プレゼン等 【知理】小テスト・定期テスト
9月	5		第2章 現代に生きる人間の倫理④		
			第4節 自己実現と幸福 1 人格の尊重と自由 2 自己実現と自由 3 幸福と功利 4 創造的知性と幸福	<ul style="list-style-type: none"> カントが人間の理性能力を吟味し、理性の限界をも明らかにしようとしていたことを理解させる。 自由と人格の尊厳を中心にカントの思想的特徴を把握させる。 19世紀の時代的背景を踏まえて、自由と幸福、個人と全体との関係についてのヘーゲルの考え方を理解させる。 快楽についてのベンサムとミルの思索をふまえ、人間の真の幸福について考えさせる。 プラグマティズムでは、思想や知識の意味や価値を現実的な有用性においたことに注目させる。 	【関意】授業態度・ノート 【思判】レポート・テスト 【技表】レポート・プレゼン等 【知理】小テスト・定期テスト
10月	6		第2章 現代に生きる人間の倫理⑤		
			第5節 個人と社会とのかかわり 1 人間性の回復を求めて 社会主義 2 人間存在の地平 実存主義 3 他者の尊重 4 社会参加と他者への奉仕	<ul style="list-style-type: none"> マルクスがとらえた人間と資本主義社会のしくみについて理解させる。 19世紀の西欧の社会状況のもとで、実存主義が成立したことを理解させる。それぞれの実存主義の思想家が追究した人間の本来の姿についての思索を通して人間のあり方・生き方を考えさせる。 アーレントの言葉を介した公共性の再発見、ハーバーマスの対話的理性、ロールズの公正としての正義などから、他者の尊重や他者との共生の問題について考えさせる。 人類愛や社会的連帯に基づく精神をもって生きること、またボランティアへの参加を通して、社会参加と奉仕の意義について理解させる。 	【関意】授業態度・ノート 【思判】【技表】レポート・プレゼン・新聞等 【知理】小テスト・定期テスト
			第2章 現代に生きる人間の倫理⑥		
			第6節 現代における理性の問題 1 生命への畏敬 2 理性主義の見なおし 3 言語論的転回 4 科学観の転換	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会において生命軽視の傾向が強まるなかで、生命への畏敬を説いた先人の思想を学び、その意義を考えさせる。 フロイトやユングを通して、非理性的な無意識という深層が、人間の心理や行動に与える影響を考察し、近代の理性主義への批判的立場であることを明らかにする。 	【関意】授業態度・ノート 【思判】【技表】レポート・プレゼン・新聞等

月	配当時間	編	学習内容（目次）	学習のねらい（目標）	評価の方法	
11月	4	第4編 国際社会に生きる日本人の自覚		<ul style="list-style-type: none">レヴィ・ストロースやフーコーの思想を通して、近代や文明、進歩について再考する。フランクフルト学派の思索を通して、理性の抱える問題点を考えさせる。分析哲学のウィトゲンシュタインを通して、言語論的転回について考察させる。科学観の転換、科学と社会の関係について考察することで、現代の科学技術の発達した現代社会の特質と問題点をとらえさせる。	聞・小論文等 【知理】小テスト・定期テスト	
			第1章 日本の風土と外来思想の受容①			
	2		第1節 日本の風土と伝統 1 日本の風土と人々の生活 2 古代の人々の考え方	<ul style="list-style-type: none">日本の風土の特徴を理解するとともに、この風土における日本人の生き方について考えさせる。今日の生活の中に見られる日本人の宗教観・倫理観について考察させる。祭祀において重視された「清き明き心」の内容を知り、それを妨げる「罪」や「穢れ」といった観念について理解させる。	【関意】授業態度・ノート 【知理】小テスト・定期テスト	
	4		第1章 日本の風土と外来思想の受容②			
第2節 仏教の伝来と隆盛 1 仏教の移入 …古代仏教の思想 2 仏教の土着化 …鎌倉仏教の思想			<ul style="list-style-type: none">日本に移入された仏教が時代とともに変容していく概要をつかませる。平安末期から鎌倉時代、自己と衆生の救済を求めた仏教者が何を説いたか、教義や特色を理解させ、仏教が内面化していくことを理解させる。法然の専ら念仏を修する専修念仏と、それをさらに徹底した親鸞の悪人正機と絶対他力について理解させる。人間はだれでも仏性があるとして自力の立場で只管打坐をといた道元の思想について理解させる。社会全体の救済を志し、法華経の行者となった日蓮の思想について考えさせる。	【関意】授業態度・ノート 【思判】資料読解・レポート 【技表】レポート・プレゼン・新聞等 【知理】小テスト・定期テスト		
12月	2		第1章 日本の風土と外来思想の受容③			
		第3節 儒教の日本化 1 儒教の伝来と朱子学 2 陽明学 3 古学	<ul style="list-style-type: none">日本に伝えられた儒教が、徳川幕藩体制成立のころから日本化されていく過程を理解させる。林羅山が徳川幕藩体制を正統化する精神的支柱として日本朱子学を打ち立てたことを理解させる。中江藤樹が、「孝」を宇宙的原理にまで高め、知行合一の実践倫理を説いたことを理解させる。山鹿素行、伊藤仁斎、荻生徂徠のそれぞれが、古学という立場で、儒学を深化させたことを理解させる。	【関意】授業態度・ノート 【思判】資料読解・レポート 【技表】レポート・プレゼン・新聞等 【知理】小テスト・定期テスト		
		第1章 日本の風土と外来思想の受容④				

月	配当時間	編	学習内容（目次）	学習のねらい（目標）	評価の方法
			第4節 日本文化と国学	江戸時代までに形成された日本人の美意識について理解させる。「雅び」「あはれ」「いき」「通」など。	【関意】授業態度・ノート
			1 古典美の再発見	「幽玄」「わび」「さび」について、能・茶の湯・俳諧と具体的な作品を通してその理念を理解させる。	【思判】資料読解・レポート
			2 国学	古典の研究に始まった国学が、儒学を批判する形をとりながら道の学として大成されたことを理解させる。	【技表】レポート・プレゼン・新聞等
				宣長が強調した人のありのままの心とはどのようなものか理解させる。	【知理】小テスト・定期テスト
			第1章 日本の風土と外来思想の受容⑤		
			第5節 近世庶民の思想	町人文化の隆盛がおこった時代背景を理解させる。	【関意】授業態度・ノート
			1 都市庶民の思想	石田梅岩の思想や生き方について理解させ、それが町人に望まれていた商業肯定の道徳であったことを理解させる。	【思判】【技表】資料読解・レポート・プレゼン等
			2 農民の思想	農民の立場と生活を把握させ、安藤昌益や二宮尊徳を通して、当時の日本で農民や町人の生活の実態に即した思索が行われていたことを理解させる。	【知理】小テスト・定期テスト
			第1章 日本の風土と外来思想の受容⑥		
			第6節 西洋近代思想の受容	時代が大きく動いた幕末から明治にかけて、先人がいかに考え、行動したかをとらえさせる。	【関意】授業態度・ノート
			1 西洋文明との接触	近代国家成立期に、福沢諭吉や中江兆民らの先人が個人と国家の関係をどのようにとらえたかを考えさせる。	【思判】資料読解・レポート
			2 啓蒙思想と民権論	西洋近代思想をささえる精神としてのキリスト教を受け入れた先人の信仰と考え方を理解させる。	【技表】レポート・プレゼン・新聞等
			3 キリスト教の受容	近代化をすすめる明治期の日本のあり方について、国家主義や国粹主義、そして社会主義の立場で模索した先人の考え方をとらえさせる。	【知理】小テスト・定期テスト
			4 国家主義の高まりと社会主義	文学作品を中心に、近代化を進めた明治大正期の日本人の自我のめざめの動きを把握させる。	
			5 近代的自我の成立	西欧に範を取った日本の近代化の中で、独自の思想の確立を求めて苦闘した思想家のあゆみを理解させる。	
			6 近代日本哲学の成立		
			7 近代日本の思想傾向への反省		
			第2章 現代の日本と日本人としての自覚		
			新たな価値観の模索／現代日本と私たちの課題／主体性の確立	坂口安吾や丸山真男の著作や活動を通して、第二次世界大戦後の日本の新たな価値観の模索について把握させる。	【関意】【思判】【技表】レポート・プレゼン・新聞作成・ディベート等
				自己の独自性の自覚とともに、他者の存在を尊重することによって他者と共に「よく生きる」世界がうまれることを考えさせる。	
1月	2				
2月	1				

後期
3
5
時間

月	配当 時間	編	学習内容（目次）	学習のねらい（目標）	評価の方法
3月	3	第5編 現代の諸課題と倫理	第1章 生命と倫理 第2章 環境と倫理		
			第1章 生命と倫理 第2章 環境と倫理	<ul style="list-style-type: none"> 生と死の問題について、具体的な事例を通して考えさせる。 生命科学技術や先端医療が今日どのような倫理問題をもたらしているか、考察させる。 環境倫理学の問題提起を、現実の環境問題と関連づけながら考察させる。 「自然の支配」という発想から、「自然と調和し、共存する」という発想への転換の必要性を理解させる。 	<p>【関意】【思判】【技表】レポート・プレゼン・新聞作成・小論文・ディベート等</p> <p>【知理】小テスト・定期テスト</p>
	2		第3章 現代の家族とその課題 第4章 地域社会の変容と共生 第5章 情報社会とその課題		
			第3章 現代の家族とその課題 第4章 地域社会の変容と共生 第5章 情報社会とその課題	<ul style="list-style-type: none"> 家族形態の変化と少子高齢化の進行のなかで家族の抱える諸問題を考察し、家族のあり方について自分なりに考えさせる。 地域社会の変容の現実を考察し、生活の場としての地域の抱える諸問題を考察させる。 情報リテラシーの必要性を実感させるとともに、情報社会における自己実現のあり方について考えさせる。 ICT革命が社会にどのような変化をもたらしているかを検討し、情報モラルの必要性を認識させる。 	<p>【関意】【思判】【技表】レポート・プレゼン・新聞作成・小論文・ディベート等</p> <p>【知理】小テスト・定期テスト</p>
			第6章 グローバル化の時代と倫理 第7章 人類の福祉と国際平和		
	3		第6章 グローバル化の時代と倫理 第7章 人類の福祉と国際平和	<ul style="list-style-type: none"> 地球市民の一人として、多様な異文化を共感とともに受けとめさせ、共生の方向を考えさせる。 異文化への寛容、多様な価値観を認めることが、異文化理解につながり、自己（自国）の存在を再確認することとなることを理解させる。 国際社会が抱えている課題に眼を向けさせ、人類のめざす方向について考えさせる。 「平和的共存・共生」という理念について考えさせる。 	<p>【関意】【思判】【技表】レポート・プレゼン・新聞作成・小論文・ディベート等</p> <p>【知理】小テスト・定期テスト</p>